



1



2

園舎の代わりに、物置きやちょっとした暖をとることができるパウワゲン(コンテナ車)があります。



3



4



5

小さな「森の幼稚園」

～1年中、森で過ごす幼稚園～



まだ寒い3月、ドイツ南西部にあるフライブルクの「森の幼稚園」の朝は、コンテナ車のフックに自分のリュックサックを下げることから始まります。登園してくる子ども達は、防水のジャケットとズボン、長靴、そして毛糸の帽子といった、まるで山登りにいくような服装です。

photo 1 2

大きな木の下で、朝の集まりが始まります。朝の歌をうたって、ダンスをして、先生のお話にあわせてチューリップの球根が花を咲かせる様子を動

きながら演じます。今日遊びに行く場所は自分達で話し合って決めます。森の中には、子ども達によって名づけられた遊び場が20ヶ所もあります。

3

マットを背負って「ゆうれいの森」へ出発です。道すがら、手を泥の中に突っ込んだり、水たまりで遊んだり、湧き水で手を洗ったりしながら、どんどん丘を登っていきます。4



6

自然の中で思い切り体を動かして遊ぶ子ども達は、自分ができることとできないことをよく知っているようでした。



7



8



9

途中、ひと休みしたのは、横たわった大きな木のベンチの上。5

切り株の上にも登ってみたい。6

目的地に着くと、まずは「朝ごはん」で腹ごしらえです。ドイツの幼稚園は朝早く始まるので、10時ごろにお弁当を食べます。ハムやチーズを挟んだパンや、ニンジンスティックが定番です。リスが子ども達の側まで遊びにきたり、キツツキが木をつつく音も聞こえました。8

家族ごっこをするのは、木や枝を集めて作られた家の中です。森の中で、ファンタジーをいっぱいにふくらませて遊びます。木によじ登って落ちて

しまう子もいますが、地面の上はフワフワした落ち葉のじゅうたんです。7

寒い日には、焚き火の周りに集まったり、夏になると農家の方とハチミツも収穫します。ハチミツをあつめる箱を先生が見せてくれました。9

自然の中で思い切り遊ぶ子ども達は、自分ができることとできないことをよく知っているようでした。おもちゃがなくても、森にあるものすべてがおもちゃになり、遊び場になってしまいます。週1日は、遠足として町の図書館や職人さんの仕事場に見学に行くそうです。子ども達は16名、先生は4名(2名は年間教育実習生)の小さな幼稚園です。